

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677500128
法人名	社会福祉法人 陵幸会
事業所名	グループホーム 陵幸園こころ
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町麓3811番地2 (電話) 0994- 58- 5055
自己評価作成日	平成28年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿屋市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が家庭的な環境の下でその能力に応じた生活が送れるよう支援し、地域とのつながりを重視しています。ホーム周辺には、住み慣れた風景が広がり畑や山もあり、ホームの菜園には四季折々の花や野菜を作り、収穫を楽しまれています。農業をされている地域の方より、野菜や果物を頂き、利用者も一緒に収穫を楽しまれています。その頂いた食材でおかずやお菓子などを作って地域の方へ届けたりして交流もさせていただいています。ドライブや散歩、町内文化祭の踊り、大正琴、歌等の催し物を観たり、「こころ」の利用者の展示作品の見学にも出かけたりして知人の方との再会もあり、とても喜ばれています。部落の奉仕作業にも声をかけていただき職員が参加しています。利用者一人一人の人格を尊重し、野菜の選別、仕分け、洗濯物干し、たたみ、レク活動等それぞれの役割を持って生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは法人内の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等の事業所に隣接して建てられており、行事を通しての交流や災害時の相互協力体制が構築されている。
- ・奉仕作業の協力など、地域の一員として自治会活動に参加している。地域からは、運営推進会議に地域代表が参加したり、避難訓練に住民が参加協力する等、相互の協力体制を構築している。台風等の避難所としてホームの地域交流室に住民を受け入れている。
- ・利用者個々人の習慣や楽しみ・特技を把握し、菜園の手入れや野菜の選別・折り紙などに能力を活かしながら、その人らしい生活ができるように工夫している。音楽に合わせて、廊下を歩く訓練などで下肢筋力機能の維持を大切にしている。
- ・利用者の車椅子対応のために居室の畳敷きをフローリングに変更したり、スムーズな避難のため掃き出し窓を設けて避難路を追加する等、利用者の安全に配慮した取り組みをしている。
- ・管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、各種研修会への出席を奨励し、職員の資質向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げパンフレットやこころ便りにも掲示している。その人らしく暮らし続ける環境、地域とのふれあいを大切にした理念を作り啓発、理解して頂ける様努めている。	地域密着型に見直した理念をホームの数ヶ所に掲示し、ミーティングや会議時に確認しながらケアに取り組んでいる。パンフレットやホーム便りにも記載し、家族等の理解も得るようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶を気軽に交わす等声をかけ合う関係ができています。地域の方が季節の野菜や果物を持って来て下さったりホームで作った煮しめや菓子を届けたりと日常的に交流をしています。	地域の奉仕活動への協力や町の文化祭に出品したり、住民との野菜や料理のやりとり等で住民と交流をしている。また、ボランティアや中学生の体験学習・ヘルパー実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	町の文化祭に作品を出品したり催し物の見学に出かけたり、近隣の方から野菜や果物等頂いたりこちらからも手作りの菓子や煮物等届け交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎に福祉関係者、地域代表者、家族代表者とでサービスの取り組み、状況報告、課題等話し合いそこでの意見を取り入れサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。ホームの状況報告や地域行事及び地区の情報等の意見交換や外部評価の報告などを行い、そこでの意見で避難訓練に有線放送を取り入れたり、日曜日に実施し、多くの住民参加を得ている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に包括支援センターの職員に参加して頂く中で意見、協力をいただくようにしている。</p>	<p>支所の担当者に電話や出向いて相談をしたり、市主催の研修会や徘徊模擬訓練に参加し、協力関係を築いている。生活保護担当者とは報告や相談等の連携を密に取っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束マニュアルを作成、勉強会を行いスタッフ間で認識している。現在事例はない。拘束しないケアを基本原則としている。</p>	<p>法人の身体拘束委員会及びホームのミーティングでマニュアルに沿って勉強会を実施し理解を深めており、言葉の拘束についても注意し合っている。昼間は玄関の施錠はせず、ウッドデッキから出て行く利用者にも見守りや付き添って対応し、拘束のない自由な生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会の中で取り上げ、防止に努めている。介護の場面で職員間で虐待に当たらないか検討しながら対応している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会で個々の必要性を話し、活用できるよう支援している。自立支援はプランに沿って支援している。青年後見制度についてはスタッフが理解して対応できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>不安な事、疑問点、意見など伺い十分に説明を行い理解、納得の上で契約している。解約についても同様である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見、要望については運営推進会議や家族の来訪時に気軽に言ってもらえる様な雰囲気作りに配慮している。又、玄関入口には苦情相談箱を設置している。出された意見等については会議を開き検討し運営に反映させている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き思いを把握している。家族からは面会時や電話・家族会・アンケートで意見を聞いている。家族会では家族だけの話し合いの時間を設けている。月1回は便りや状況報告を送付している。面会時には職員から声をかけて、近況報告をして要望等を聞いており、出された要望等は検討して対応に努めている。玄関入り口に苦情相談箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや職員会議等で運営に関する意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、毎日のミーティングや月1回の職員会議で職員の意見を聞く機会を設けている。廊下を音楽に合わせて歩き下肢筋力を維持することや居室のフローリング化・避難用に腰窓を掃き出し窓にする等の提案に、法人に相談して意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の都合をできるだけ反映させた勤務体制とし意見を取り入れ、やりがいにつながるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症に関する研修会や各種勉強会への積極的な参加を推進している。研修会で学んだ事を職員会議で発表、他の職員に報告、研修内容の共有に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣にグループホームがありお互いに情報提供をしたり気軽に訪問などしている。また、近隣グループホームとの会を設け、情報提供を行い、質の向上につながるよう取り組んでいる。他施設を参考にしたい点は導入していきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して過ごせるよう観察、傾聴を行い希望等聞く機会を設けている。入所前にはホームに訪問して頂き不安を取り除けるよう努めている。気づいた事など参考にしながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に情報提供を行い、家族の思いを組みとりホームで安心して過ごしていただけるよう環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況把握に努め必要な事の優先順位を見極め支援を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力に応じ、洗濯物の整理や食材の選別等日常の家事の他菜園の収穫等もスタッフと一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	活動と一緒に参加していただいたり外部からの慰問者の方らと活動したりして楽しいひとときを過ごしていただいている。訪問時は自室で一緒に過ごしやすい環境を整えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内文化祭見学、ドライブ、散歩等の機会を作り、馴染みの人との交流を図っている。ドライブでは親しんだ場所を通るよう計画、思い出話をしたり、知人と会う機会を作るようにしている。	親戚や馴染みの友人知人の訪問を奨励し、散歩の際に牛の飼育の様子を見に行ったり、地域の行事に参加するなど継続的関係が途切れないよう働きかけている。年賀状を支援したり、電話の取次ぎもしている。家族の協力で外出や外食、理美容院の利用なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の趣味や関心のある事を把握し共同作業等楽しめるよう企画している。日常生活でも洗濯物の整理や食材の選別等一緒に話しながらできるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為の退所においても入院先を訪問したり、電話する等して家族の相談にのっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族にどうしたいか、どうしてやりたいかを聞き意思に沿ってプランを作っている。本人の意思がつかめない状況の時は家族に話しをし本人の状況を把握しながら進めている。	日常の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。家族や友人・知人の情報も得ながら、意見や要望を聞いている。把握が困難な場合は、仕草や表情の動き、家族の情報等を参考に本人の思いを推測し、テレビ視聴にイヤホンの利用や編物希望など、支援に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活暦、趣味、特技等伺い個性を大切にしている。他機関や家族より情報収集を行い思いを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の支援の中で一日の流れをつかみまとめて全スタッフが参照できるようにしている。個々の生活のペースを保ちながら心身の状態等総合的に把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフの意思をまとめ計画を作り必要に応じカンファレンスを行いながら計画修正を行っている。定期的にモニタリングし計画に反映させている。	家族の面会を利用して担当者会議や電話で情報を貰い、本人や家族の意向を汲み取った上で、主治医の意見も取り入れ、カンファレンスを行い、個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をきちんと書き、変更点、注意点は申し継ぎ帳やノートに記入し、全職員が情報共有できるようにしている。計画との相違点はその都度検討し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況にあわせ意向を聞きながら施設と調整しつつ対応策を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の催し物、バザー等へ参加したり中学生、ボランティアの体験学習や職場体験等の受け入れや地域の方の踊り、歌、大正琴、マジックショー等の交流会も行っている。民生委員との意見交換の機会も設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望を大切にかかりつけ医への受診支援を行っている。月2回主治医の訪問診療も行われ、医療機関との連携や家族への報告も適切に行っている。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。2週間に1回主治医の訪問診療や訪問歯科診療など支援している。内服薬は、薬剤師から服用の仕方や内容など直接指導を受けている。他科受診は家族の協力をもらっている。特別養護老人ホームの看護師とも連携しており、24時間医療連携体制が整っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は入居者の変化に気づいたらかかりつけ医や看護員に連絡、相談し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時医師と面談の時間をとっていただいたり、家族と一緒に説明を受けるようにしている。退院後の受け入れ等連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた支援はマニュアルを作成しており契約時の段階から事業所の方針等本人、家族に説明している。体調変化時にはその都度家族の意向を伺い方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。同法人の特別養護老人ホーム・老人保健施設・入院の選択肢についても説明している。状況変化に伴い主治医の診断を踏まえ状況を伝え、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成しミーティング時に必要に応じ個々の対応について検討している。全スタッフで周知徹底を図っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を実施している。ホーム内では毎月職員間で避難訓練を実施している。地域の方々も訓練参加して下さり利用者の誘導協力や消火器での訓練にも参加され、地域の方の協力体制ができています。</p>	<p>年2回避難訓練を夜間想定で実施し、1回は消防署の立ち会いで隣接の特別養護老人ホームと共同で行っている。非常災害時の対応やマニュアルを確認し避難経路や廊下の手すりの蛍光テープ・防災用頭巾・個々のデータを記載した名簿の整備等に取り組んでいる。地域とも協力体制も築かれている。災害時の水や米・乾物・缶詰などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は利用者の意思と尊厳を大切にし声かけや敬意のある対応に配慮している。部屋への出入り時声をかけたり日常の会話では丁寧な言葉で接するように心がけプライバシーに関する事は話さないようにしている。</p>	<p>利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。新人研修や接遇研修などを行って、職員の資質向上に取り組んでいる。さん付けでの呼びかけや排泄介助時のさり気ない声かけ・子ども扱いをしない等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を支援している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者の意思や思いなど聞きながら何でも話せる雰囲気作りに努め、選択してもらう方向で確認しながら対応している。</p>			
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の体調や思いを考慮し行っている。個性を大事にし無理強いしないよう心がけている。</p>			
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>髪染めやカットなど馴染みの美容院へ行かれたり、好みの洋服を選んだり、化粧の習慣のある方は継続して楽しまれている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の大きな楽しみとしてとらえ利用者の嗜好に配慮した献立をしている。本人の食べる意欲を大切にしながら、自力でゆっくりと食事ができる支援に努めている。	毎週のメニュー会議で利用者の希望を聞き、栄養士の意見も参考に職員が献立を作成し、下ごしらえや準備・食事を職員と利用者が一緒にしている。誕生日や行事食、一緒に作る料理教室、外食等の様々な楽しみの機会を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、ミキサー食、刻み等食べやすい形態に調理している。水分、食事摂取量を記録、把握に努めている。管理栄養士のアドバイスももらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や外出後の口腔ケアの徹底に努めている。勤務シフトにて担当を決め口腔ケア実施表を作成記録している。必要に応じ歯科受診につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄で対応している。ほとんど尿意、便意のない方も排泄パターンをつかみ、日中はパンツとパッドにする等個々に対応している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、日中は主にトイレでの排泄を支援し、パットとパンツで対応している。複数介助の対応もしている。夜間は、個々の状況に応じてポータブルトイレやオムツを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い水分補給や運動を促している。便秘予防には食物繊維の多い食材を取り入れたり、服薬時の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の希望に応じご本人の体調に合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒まれる人は安心感を持ってもらえるよう声かけや対応をしている。	入浴は基本的に週3回であるが、利用者の希望に応じ、入浴を楽しめるように、個々に応じた支援をしている。清潔保持のためのシャワー浴も取り入れている。嫌がる場合は、無理強いせずタイミングを見て声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状を理解し処方内容を確認している。服薬変更時には家族、職員に報告記録している。薬の用法、用量、副作用等承知し服薬支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活暦、趣味、特技、経験を生活の中に活かしている。残存機能を活かして野菜作り、台所の仕事、創作活動を入居者と相談しながら決めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の体調など考慮しながら散歩やドライブ等日常的に外気に触れる機会を多くもてる様に支援している。近隣の方の畑に季節の果物や野菜があり、一緒に貰いに行ったりする等の支援をしている。(金柑、みかん、柿白菜、大根、人参、ネギ…)	日常的には散歩やドライブに出かけたり、近所の果物や野菜をもらったり、ホームで作った天ぷらなど届けるなど戸外に出かけられるよう支援している。ホームの行事で初詣や季節毎の花見に出かけたり家族の協力で外出や外食・温泉にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物と一緒に出かけた時など、支払いをして頂いたり、お金の管理の難しい方は家族より預かり施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて電話をかけたり取り継いでいる。代弁、手紙、はがきの代筆等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は備え付けのベッド、タンスが設置されている。家族の写真やレク等で作成した塗り絵、コメント入り色紙等多数貼られ、本人が安心して過ごせるよう工夫している。	広いホールは、ウッドデッキから山や畑を眺めて季節を感じたり、ガラス戸からの採光が明るく、加湿器等が置かれ清潔である。文化祭に出品した貼り絵や季節感を大事にした飾りつけがなされている。ドアは障子の佇まいで柔らかい。ソファで居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士が自由にくつろげるようソファの位置を変えたり、リビングの席を替えたりして工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して使い慣れた家具や小物など持ち込まれ、ご本人の好みに応じ自由に変えて頂けるよう工夫している。自室には、孫やひ孫の写真や贈り物など飾られている。	電動ベッド・タンス・防災用の頭巾が居室に備えられ、寝具はリースになっている。本人の必要に応じてテレビや毛布を持ち込み、時計・ぬいぐるみを置いたり家族の写真等を飾って、本人が落ちついて過ごせるようにされている。季節で配置を変える工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで物干しの高さの調整や廊下、洗面所、浴室、トイレ等手摺りを設置している。個人では使い慣れた杖や車椅子を持ってきて頂き安全で自立した生活が送れる様工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない